

創刊号

スキンケア・NST新聞

2010年4月1日発行

はじめまして、神戸協同褥瘡対策委員会・NST委員会です。

院内でスキンラウンドが開始されはや10年がたちました。その間、石川先生をはじめ委員会メンバーは、学会発表や学習会開催などの活動を地道に重ね、医療・看護水準の維持、向上の役割を担ってきました。

09年度については、中堅看護師研修のテーマの1つにもなりましたが、その中で、あるいは現場の声などから、意外と基本的なケアであったり、褥瘡関連の学習会や取り組み、当院の現状などが知られていないことも見えてきました。

2010年度は、NSTの活動も専門療法士教育認定施設として、新たな学習会企画も課題と考えていますが、日常的な情報提供の一つとしてスキンケア・NST新聞を取り組むことになりました。読み物が多いとお嘆きの方もおられると思いますが、一人でもたくさんの方に読んでいただき、神戸協同病院の強みである褥瘡・NSTについてまず知っていただくことから始めたいと思います。

NSTメンバー紹介：*石川医師 読問管理栄養士 新田管理栄養士 *光原管理栄養士 *宮田Ns *寺内Ns *深田Ns *三角Ns *森本Ns
廣瀬ST *稲井薬剤師・・・検査技師の方募集中 *印の方は褥瘡委員と兼任です

当院の褥瘡患者状況

<2月>3回診
(学会の為1回休み)
2F 18件
3F 9件
4F 16件 計 54件

当院のNSTラウンド状況

3/11の回診者数
2F 5名
3F 3名
4F 3名 計11名
栄養状態に問題のある患者はもっと隠れているんじゃないかなあ。
NSTの依頼はどなたからでも出来ます。依頼お待ちしています!!

‘看護のつばやき’ 深田ナース編

3階病棟入院中のTさんは、2月初旬、多発褥瘡のため入院してこられました。アルコール性肝障害で当院を退院後、自宅で友人がお世話されていましたが、飲酒を続けられ、徐々に食べられなくなり、ほぼ寝たきりとなっていました。

下肢に褥瘡を多発し、深いものは臍にまで達していました。

入院時は低Abで浮腫が出現し、褥瘡と浮腫から四肢に触れるだけで痛みを訴え、いつも険しい顔をされていました。

病棟NsはDrの指示のもと、ラップと薬剤による創処置と弱酸性石鹸を使用した創周囲の皮膚の保清を毎日地道に続けました。褥瘡を悪化させないように、肢位に注意して体位変換を行いました。また、入院直後からNSTが介入し、食事の温度や形態を調整したり栄養食補助食品をつけるなどして摂食量を増やしました。

その結果Abが上昇し、浮腫も改善しました。その後はみるみる改善し、痛みも軽減して、介助で車椅子に移乗できるようになりました。退院までもう少し時間はかかりそうですが、毎日主治医と冗談を交わしながら笑顔で過ごされています。

そんなTさんを見て私達も嬉しくなります。日々の看護が実を結び、丁寧に処置を続けてきてよかったなあと感じた一事例でした。



日本静脈経腸栄養学会に行ってきました！



2月25日～26日 日本静脈経腸栄養学会が行われました。

石川医師、詫間、新田、光原、三角で参加してきました！

参加者の感想から・・・

「NSTに取り組む人が増えているなという印象」

「すごいたくさんのポスターセッションの数に圧倒されました。限られた時間の中で全部見つけられないくらいだった」

「車椅子のまま測定できる手作り体重計は興味深かった。当院でも作れそう・・・」

「高齢者の栄養状態の評価ツールの紹介があった・・・当院でも積極的に使っていきたいね」

職種がたくさん関わる事や、診療報酬での加算が影響しているのか、規模の大きい学会でした。

これからまだまだ成長する学会です。日常の中で実践して来年は演題発表たくさん出したいですね。



✿ そもそもNSTって何？

医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・言語聴覚士・ソーシャルワーカーなど、医療に携わる様々なスタッフが、共同で患者さまの栄養状態をチェックし、きめ細かいケアを行うチームの事です。

栄養管理は、すべての疾患治療の上で共通する基本的医療の一つで、疎かにすると、如何なる治療法も効果を失いさらに侵襲的な治療法に伴う副作用や合併症の発生を容易にする。

✿ NST活動紹介

NSTランチミーティング

毎週木曜日 13:00～

NST回診

毎週木曜日 14:00～

4階病棟からスタート

“褥瘡看護ミニ学習のコーナー”

褥瘡の形状とその要因'

発生直後の褥瘡の形状は、褥瘡が発生した原因のアセスメントに有用な情報であると共に、褥瘡経過の予測の為の情報にもなります。褥瘡の形状は、大きく、下記の2通りに分類されます。

1. 円形や楕円形などの整形を呈している場合

・・・基本的な除圧対策が必要です

局所の均一な圧迫により発生したと考えられる。(ギャッジアップや、長時間同一体位となった場合など)適切な体圧分散用具を使用するなど、圧迫を回避するケアの実施が最重要となる。全身的要因が少なく、かつ適切なケアが実施されれば、比較的早く治癒に向かうと予測できる。

2. 地図状の不整形を呈している場合

・・・オムツの当て方に工夫が必要です

失禁や発汗により湿潤した局所の皮膚に摩擦やずれの力が働いて発生したと考えられる。これらの要因を排除することが最重要となるが、要因が複雑である分、その除去が困難となり、治癒が遷延することがある。